

意見提出者	個人
1. 項目	情報化における外字対応
2. 既存の制度・規制等によってICT利活用が阻害されている事例・状況	<p>日本と欧米を比較した場合、日本は外字対応という大きなハンデキャップを負っている。</p> <p>日本国内のほぼ全ての産業が外字の件で何らかの対応を行っていると考えられるが、特にIT産業において大きな負荷となっている。</p> <p>国、地方公共団体、企業・団体などで個別に外字対応を行っているのが現状と考えるが、国際的な標準規格を強く意識しなければならないIT産業において日本独自のローカルルールに少なくない費用と労力が投入されているのは無駄としか思えない。</p> <p>※近年ではMicrosoft社のJISX0213:2004対応に伴う字体の変更や追加などの問題も発生したが、今後についても同様のリスクを抱えている。</p>
3. ICT利活用を阻害する制度・規制等の根拠	—
4. ICT利活用を阻害する制度・規制等の見直しの方向性についての提案	<p>情報通信産業における外字対応について、「JIS*の第*水準以下の漢字は平仮名で置き換える」等国として基準を設ける。</p> <p>(個人の氏名など) アイデンティティの観点から外字問題を解消するのは困難かと思うが、少なくない費用と労力を投入してまで対応すべきことかと考えれば、割り切った運用も許容され则认为る。</p> <p>また、現在外字対応に要している労力をより有効なことに割けるようにした方が日本企業の国際競争力強化の面でも有効と考える。</p>